

## II 河川等水質調査

### 1 河川の概要

#### (1) 水質汚濁にかかる環境基準

水質汚濁にかかる環境基準は、公害対策基本法にもとづき、昭和45年の閣議決定によって設定されました。さらに、近年の産業の多様化に対応できるよう、平成5年3月に環境基本法による「人の健康の保護に関する環境基準」が改正され、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン等水質汚濁にかかる人の健康の保護に関する環境基準の15項目が追加されました。さらに平成11年にはふっ素、ほう素、硝酸性窒素および亜硝酸性窒素の3項目、平成21年には1,4-ジオキサンが追加されて現在に至っています。基準値について平成21年に1,1-ジクロロエチレン、平成23年にカドミウム、平成26年にトリクロロエチレンが改正され、下記の表のとおりとなっています。

人の健康の保護に関する環境基準

(単位：mg/L)

項目	基準値	項目	基準値
カドミウム (Cd)	0.003 以下	1,1,1-トリクロロエタン	1 以下
全シアン (CN)	検出されないこと	1,1,2-トリクロロエタン	0.006 以下
鉛 (Pb)	0.01 以下	1,1-ジクロロエチレン	0.1 以下
六価クロム (Cr <sup>6+</sup> )	0.05 以下	シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04 以下
ひ素 (As)	0.01 以下	1,3-ジクロロプロペン	0.002 以下
総水銀 (T-Hg)	0.0005 以下	チウラム	0.006 以下
アルキル水銀 (R-Hg)	検出されないこと	シマジン	0.003 以下
PCB (ポリ塩化ビフェニル)	検出されないこと	チオベンカルブ	0.02 以下
トリクロロエチレン	0.01 以下	ベンゼン	0.01 以下
テトラクロロエチレン	0.01 以下	セレン	0.01 以下
四塩化炭素	0.002 以下	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10 以下
ジクロロメタン	0.02 以下	ふっ素	0.8 以下
1,2-ジクロロエタン	0.004 以下	ほう素	1 以下
1,4-ジオキサン	0.05 以下		

生活環境の保全に関する環境基準

項目 類型	pH	BOD (mg/L)	SS (mg/L)	DO (mg/L)	大腸菌群数 (MPN/100mL)
AA	6.5~8.5	1 以下	25 以下	7.5 以上	50 以下
A		2 以下			1,000 以下
B		3 以下		5,000 以下	
C	6.0~8.5	5 以下	50 以下	5 以上	—
D		8 以下	100 以下		
E		10 以下	ごみ等の浮遊が認められないこと		

市内の公共用水域の類型指定と達成期間

指 定 水 域	水域類型	達成期間	指 定 年 月 日
多摩川上流(1) (和田橋より上流)	AA	イ	平成10年 6月 1日 環境庁告示第27号
多摩川上流(2) (和田橋から拝島橋まで)	A	ハ	昭和45年 9月 1日 閣議決定
成木川(埼玉県境から上流)	A	イ	平成29年 3月17日 東京都告示第463号
黒沢川、霞川(埼玉県境から上流)	A	イ	平成29年 3月17日 東京都告示第463号

(達成期間)

イ … ただちに達成                      ロ … 5年以内で可及的速やかに達成

ハ … 5年を超える期間で可及的速やかに達成

主な有害物質について

物質名	性状・用途	健康影響・環境影響
カドミウム (Cd)	重金属。充電式電池、塗料、メッキ工業など用途が広い。	生体への蓄積性があり、慢性中毒を引き起こす。イタイイタイ病の原因物質とされる。
シアン (CN)	無機化合物。メッキ工業、化学工業など。水中では、シアンイオン、シアン化合物として存在する。	生体への蓄積性はない。急性中毒を引き起こす。シアンに汚染された水を飲用すると急速に粘膜から吸収され、血液中で呼吸酵素を阻害し、頭痛、吐き気、浮腫などを引き起こす。
鉛 (Pb)	重金属。鉛蓄電池、鉛管、ガソリン添加剤など用途が広い。	生体への蓄積性があり、慢性中毒を引き起こす。
六価クロム (Cr <sup>6+</sup> )	重金属。化学工業薬品・メッキ剤などに用いる。	生体への蓄積性があり、慢性中毒を引き起こす。皮膚潰瘍、胃・肺ガン、鼻中隔湾曲などを発症する。
ひ素 (As)	重金属。鉱山、製薬、半導体工業などに用いる。	生体への蓄積性があり、慢性中毒を引き起こす。肝臓障害、皮膚沈着、皮膚がんなどを発症する。
全水銀 (THg)	重金属。化学工業、電解ソーダ、蛍光灯、計器などに用いる。	環境中で有機水銀に転換する可能性がある。
PCB (ポリ塩化ビフェニル)	有機塩素化合物。かつては、電気絶縁油、熱媒体、ノーカーボン複写紙などに用いられたが、現在は製造されていない。	生体への蓄積性があり、慢性中毒を引き起こす。生体黒色素沈着、塩素座蒼などを発症する。油症事件の原因物質とされる。

※出典 国立環境研究所 公共用水域の水質測定結果データの説明より

## 水の汚れを見分けるモノサシ

項目	説明
pH (水素イオン濃度)	水の酸性、アルカリ性を示す指標。0 から 14 の間の数値で表現されています。pH7 が中性、小さくなるほど酸性、大きくなるほどアルカリ性であることを表しています。通常日本の河川の pH 値は 7.0 前後、海域は 7.8～8.3 前後です。
BOD (生物化学的酸素要求量)	水中の汚濁物質の量について、それが微生物によって酸化分解される際に必要とされる酸素量をもって表したものです。値が大きくなるほど汚濁が進んでいることを示します。水質環境基準の代表的なもので、主に河川の有機性汚濁物質による水質汚濁指標として用いられています。
SS (浮遊物質)	水中に浮遊して溶解しない物質の総称で、水の汚濁状況を示す重要な指標のひとつです。河川に SS が多くなると、光の透過を妨げ、自浄作用を阻害したり、魚類に悪影響を及ぼします。また、沈降堆積すると、河底の生物にも悪影響を及ぼします。
DO (溶存酸素)	水中に溶解している酸素のこと。酸素が水中に溶解する量は、気圧、水温、溶解塩類濃度により影響を受けます。1 気圧のもとで 20℃の清水には約 9mg/L の酸素が溶解します。水が清純であればあるほど、その条件における飽和量に近くなります。また、日中、水中植物の光合成が行われると、DO は高くなります。
COD (化学的酸素要求量)	水中の汚濁物質の量について、それが酸化剤で化学的に酸化するとき消費される酸素量を持って表したものです。数値が大きくなるほど汚濁が進んでいることを示します。水質環境基準では、海域及び湖沼の水質汚濁指標として用いられています。

※東京都環境局HP 用語集より

### (2) 河川の汚染状況

青梅市では、市内の公共用水域の水質状況の把握と河川の環境保全のため、毎年定期的に河川の水質調査を行うとともに、水質汚濁防止と監視のため、工場や事業所から公共用水域に排出される排出水の調査も行っています。また、有害物質等の蓄積を監視するため底質調査も行っています。(令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部の河川水質調査、排出水の調査、底質調査を中止しました。)

本市の河川の水質は、生活排水に起因する生活項目の1つである生物化学的酸素要求量(以下「BOD」という。)について、環境基準を達成していました。

### (3) 主要河川の水質調査結果の概要

#### ア 多摩川

BODについて、本流1地点(多摩川橋)を前年と比較してみると、年平均値が前年度0.8mg/L、今年度0.6mg/Lでした。

環境基準については、A類型BOD2mg/L以下で、達成していました。

また、令和3年度調査中止の御岳橋は、参考値として年平均値が前々年度0.6mg/L、前年度0.5mg/Lでした。



多摩川橋



御岳橋

### イ 成木川

BODについて、本流1地点（両郡橋[東京都調査]）を前年と比較してみると、年平均値が前年度0.5mg/L、今年度0.8mg/Lでした。

環境基準については、A類型BOD 2mg/L以下で、達成していました。

また、令和3年度調査中止の北小曾木川合流後は、参考値として年平均値が前々年度0.6mg/L、前年度0.8mg/Lでした。



両郡橋



北小曾木川合流後

### ウ 黒沢川

BODについて、本流1地点（落合橋[東京都調査]）を前年と比較してみると、年平均値が前年度0.5mg/L、今年度1.0mg/Lでした。

環境基準については、A類型BOD 2mg/L以下で、達成していました。

また、令和3年度調査中止の峯向橋は、参考値として年平均値が前々年度0.6mg/L、前年度0.5mg/Lでした。



落合橋



峯向橋

## エ 霞川

BODについて、本流1地点（金子橋[東京都調査]）を前年度と比較してみると、年平均値が前年度0.6 mg/L、今年度0.9 mg/Lでした。環境基準については、A類型BOD2以下で、達成していました。

また、令和3年度調査中止の城前橋は、参考値として年平均値が前々年度0.9 mg/L、前年度0.5 mg/Lでした。



金子橋



城前橋

### ※ 市内地下水調査

環境調査のため、3か所の井戸で地下水調査を実施しました。

令和3年度の調査では、採水、分析した結果、カドミウム等重金属類の有害物質は検出されませんでした。

### ※ 事業所水質調査

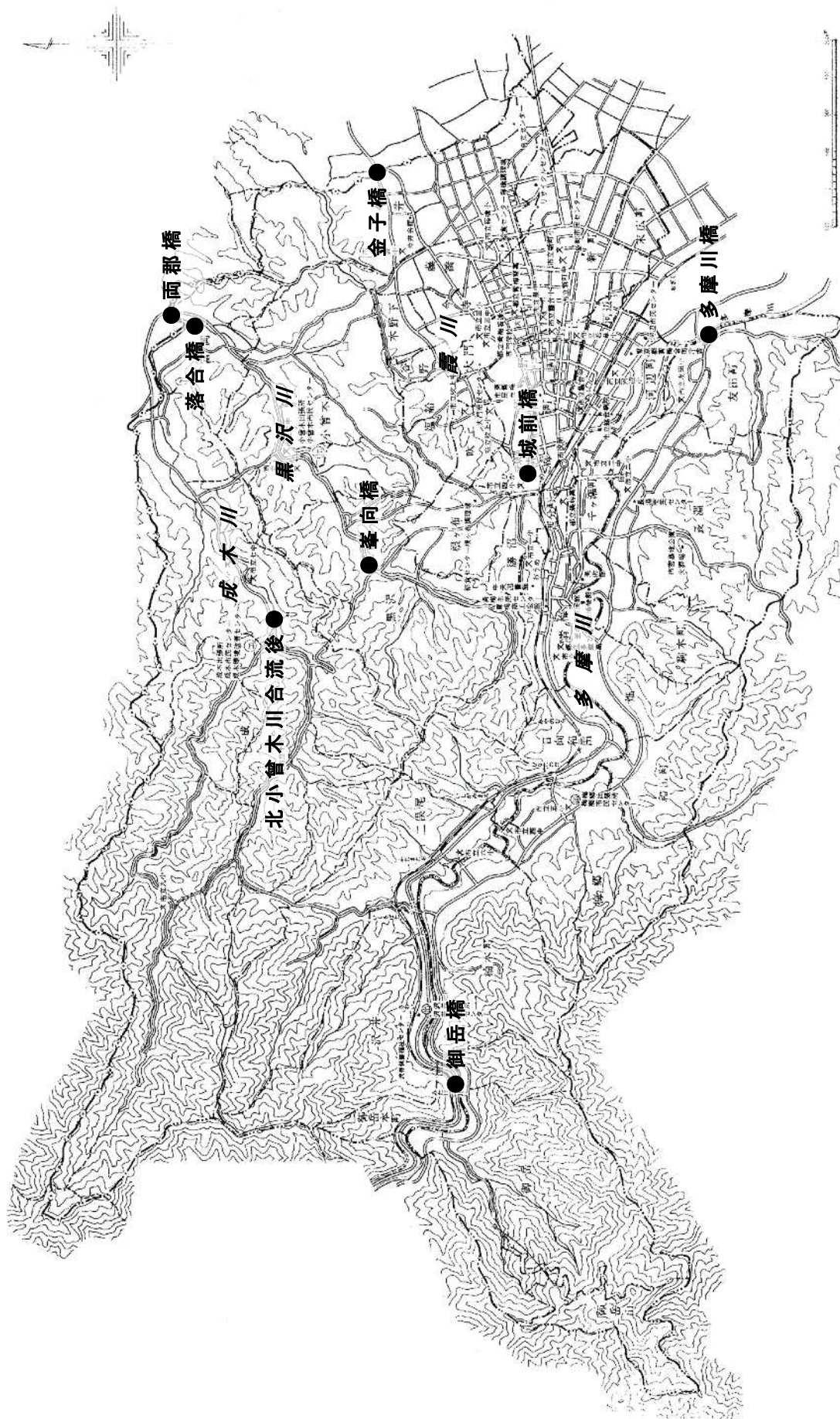
水質汚濁防止と監視のため、例年、工場や事業所から公共用水域に排出される排出水を調査していますが、昨年度に続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。

### ※ 河川および地下水中のPFOS・PFOA調査

環境調査のため、令和3年度から河川1か所および地下水1か所の調査を実施しました。

令和3年度の調査では、採水、分析した結果、国が指針値（暫定）としている50 ng/L以下でした。

河川水質調査地図



## 2 調査結果（年平均）

河川区分(類型)		多摩川本流(AA)		多摩川本流(A)			多摩川支流(なし)					
調査地点		御岳橋	神代橋	万年橋	下奥多摩橋	多摩川橋	平溝川	平溝川上流	町屋川	釜の淵排水口	田端川	
現場測定項目	採取位置	未実施					流心	未実施				
	採取水深						表層					
	気温 (°C)						21.1					
	水温 (°C)						19.2					
	透視(明)度 (cm)						>50					
生活環境項目	pH	未実施					8.0	未実施				
	DO (mg/L)						10.4					
	BOD (mg/L)						0.6					
	COD (mg/L)						1.4					
	SS (mg/L)						4					
	大腸菌群数 (MPN/100mL)						595					
	全窒素 (mg/L)						0.80					
	全りん (mg/L)						0.018					
健康項目	カドミウム (mg/L)	未実施					<0.0003	未実施				
	全シアン (mg/L)						<0.1					
	鉛 (mg/L)						<0.002					
	六価クロム (mg/L)						<0.01					
	ひ素 (mg/L)						<0.003					
	全水銀 (mg/L)						<0.0005					
	アルキル水銀 (mg/L)						<0.0005					
	PCB (mg/L)						<0.0005					
	1,4-ジオキサン (mg/L)						<0.005					
	その他の項目						全クロム (mg/L)					
MBAS (mg/L)		<0.02										
アンモニウム性窒素 (mg/L)		0.03										
りん酸性りん (mg/L)		0.012										
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)		0.48										
ふっ素 (mg/L)		0.02										
ほう素 (mg/L)		<0.01										
亜鉛 (mg/L)		<0.001										
ノニルフェノール (mg/L)		<0.00006										
LAS (mg/L)		<0.0006										
追加15項目		未実施					不検出	未実施				

※追加15項目：ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1,3-ジクロロプロペン、ベンゼン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、セレン

河川区分(類型)		多摩川支流(なし)						成木川本流(A)		
調査地点		清見川	清見川上流	霞台放流渠	蔦巣川	四谷川	大荷田川	山神橋	梅ヶ平	北小曾木川合流前
現場測定項目	採取位置	流心	未実施			流心	未実施			
	採取水深	表層								
	気温 (°C)	25.8								
	水温 (°C)	19.1								
	透視(明)度 (cm)	>50								
生活環境項目	pH	7.8	未実施			7.8	未実施			
	DO (mg/L)	10.7								
	BOD (mg/L)	0.8								
	COD (mg/L)									
	SS (mg/L)	<1								
	大腸菌群数 (MPN/100mL)	790								
	全窒素 (mg/L)									
	全りん (mg/L)									
健康項目	カドミウム (mg/L)	<0.0003	未実施			<0.0003	未実施			
	全シアン (mg/L)	<0.01								
	鉛 (mg/L)	<0.001								
	ひ素 (mg/L)	<0.001								
	全水銀 (mg/L)	<0.0005								
その他の項目	全クロム (mg/L)	<0.01	未実施			<0.01	未実施			
	MBAS (mg/L)									
	アンモニア性窒素 (mg/L)	0.02								
	りん酸性りん (mg/L)	0.029								

河川区分(類型)		成木川本流 (A)			成木川支流 (なし)		黒沢川本流 (A)			
調査地点		北小曾木川合流後	直竹川合流前	黒沢川合流前	北小曾木川	二本竹川	大熊神社前	峯向橋	鉄平橋	第六中学校前
現場測定項目	採取位置	未実施								
	採取水深									
	気温 (°C)									
	水温 (°C)									
	透視(明)度 (cm)									
生活環境項目	pH									
	DO (mg/L)									
	BOD (mg/L)									
	COD (mg/L)									
	SS (mg/L)									
	大腸菌群数 (MPN/100mL)									
	全窒素 (mg/L)									
全りん (mg/L)										
健康項目	カドミウム (mg/L)									
	全シアン (mg/L)									
	鉛 (mg/L)									
	ひ素 (mg/L)									
その他の項目	全水銀 (mg/L)									
	全クロム (mg/L)									
	MBAS (mg/L)									
	アンモニア性窒素 (mg/L)									
りん酸性りん (mg/L)										

河川区分(類型)		黒沢川支流 (なし)			霞川本流(A)	霞川支流 (なし)		
調査地点		黒沢1丁目 地内水路	日原沢	小布市川	城前橋	勝沼小曾木	根ヶ布川	矢端川
現場測定項目	採取位置	未実施						
	採取水深							
	気温 (°C)							
	水温 (°C)							
	透視(明)度 (cm)							
生活環境項目	pH							
	DO (mg/L)							
	BOD (mg/L)							
	COD (mg/L)							
	SS (mg/L)							
	大腸菌群数 (MPN/100mL)							
	全窒素 (mg/L)							
全りん (mg/L)								
健康項目	カドミウム (mg/L)							
	全シアン (mg/L)							
	鉛 (mg/L)							
	ひ素 (mg/L)							
その他の項目	全水銀 (mg/L)							
	全クロム (mg/L)							
	MBAS (mg/L)							
	アンモニア性窒素 (mg/L)							
りん酸性りん (mg/L)								

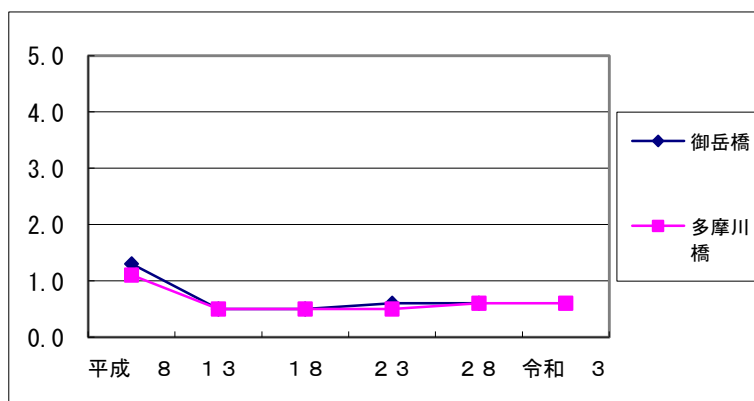


### 3 BOD経年変化（数値は年平均値）

#### ○ 多摩川

（単位：mg/L）

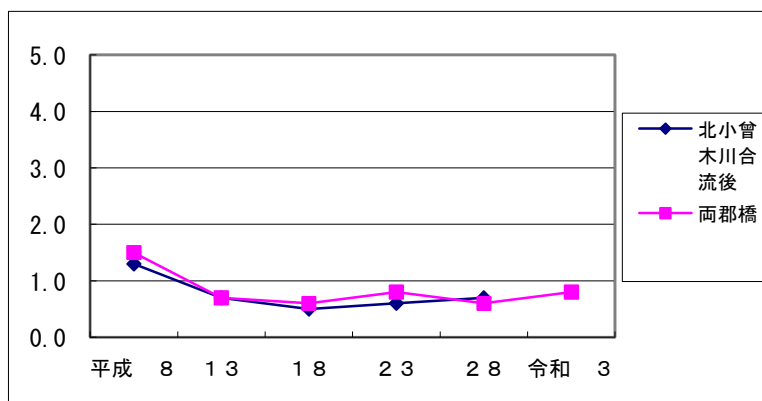
年度	御岳橋	多摩川橋
平成 8	1.3	1.1
13	0.5	0.5
18	0.5	0.5
23	0.6	0.5
28	0.6	0.6
令和 3	-	0.6
現在の環境基準	1 mg/L 以下	2 mg/L 以下



#### ○ 成木川

（単位：mg/L）

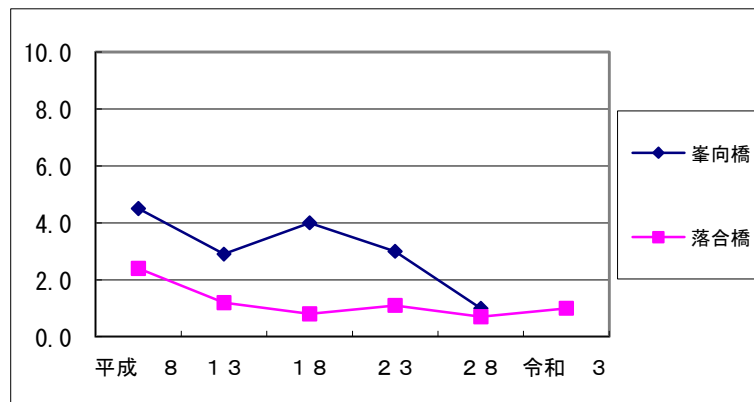
年度	北小曾木川合流後	両郡橋
平成 8	1.3	1.5
13	0.7	0.7
18	0.5	0.6
23	0.6	0.8
28	0.7	0.6
令和 3	-	0.8
現在の環境基準	2 mg/L 以下	2 mg/L 以下



#### ○ 黒沢川

（単位：mg/L）

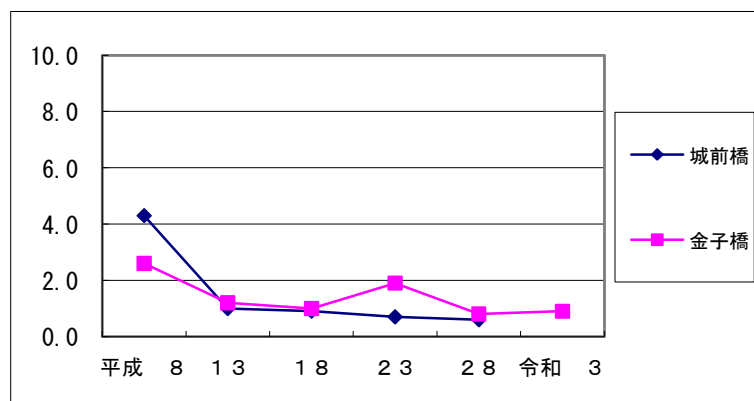
年度	峯向橋	落合橋
平成 8	4.5	2.4
13	2.9	1.2
18	4.0	0.8
23	3.0	1.1
28	1.0	0.7
令和 3	-	1.0
現在の環境基準	2 mg/L 以下	2 mg/L 以下



#### ○ 霞川

（単位：mg/L）

年度	城前橋	金子橋
平成 8	4.3	2.6
13	1.0	1.2
18	0.9	1.0
23	0.7	1.9
28	0.6	0.8
令和 3	-	0.9
現在の環境基準	2 mg/L 以下	2 mg/L 以下



#### 4 藻類・底生生物調査結果

調査目的：アユの餌となる付着藻類の現状把握のため、年3回、市内の多摩川の3か所において調査を実施しました。また併せて年1回、市民球技場において底生生物および川石の付着物の定性分析を追加実施しました。経年変化の確認のため、10年間の分析資料から底生生物、付着藻類について出現種を分類学的に集計し水質判定を行ったところ、年間変動に規則性は見られず、付着藻類や水生昆虫、魚類などの生物量が多く、アユも生息するきれいな水域であるとの結果でした。

調査日：令和3年6月3日、令和3年8月31日、令和3年11月4日

調査地点：市内多摩川3か所（市民球技場、和田橋、楓橋）

- 調査項目：(1) 乾燥重量（採取した検体を乾燥させて計測したもの）  
 (2) 強熱減量（採取した検体をガスバーナーで加熱して、無くなった値＝藻類などの有機物量）  
 (3) 灰分率（無機物の割合）  
 (4) クロロフィル a（水中の植物プランクトンの量）  
 (5) 付着藻類同定調査（令和3年8月31日のみ実施）

##### (1) 灰分等調査結果

調査地点、調査項目		調査日		
		6.3	8.31	11.4
市民球技場	乾燥重量 (mg)	65.4	16.3	8.5
	強熱減量 (wt%)	47.4	48.5	39.8
	灰分 (wt%)	52.6	51.5	60.2
	クロロフィル a ( $\mu\text{g}/\text{cm}^2$ )	3.7	2.5	2.3
和田橋	乾燥重量 (mg)	21.1	10.5	6.6
	強熱減量 (wt%)	44.4	21.4	31.8
	灰分 (wt%)	55.6	78.6	68.2
	クロロフィル a ( $\mu\text{g}/\text{cm}^2$ )	4.5	2.2	2.4
楓橋	乾燥重量 (mg)	12.1	7.8	8.8
	強熱減量 (wt%)	30.4	26.3	41.2
	灰分 (wt%)	69.6	73.7	58.8
	クロロフィル a ( $\mu\text{g}/\text{cm}^2$ )	3.3	2.2	2.5

## (2) 付着藻類調査結果 (調査日: 令和3年8月31日)

## ア 出現種一覧

単位: 細胞数/mm<sup>2</sup>

No	類	種名		市民球技場	和田橋	楓橋
		学名	和名			
				2021. 8. 31		
1	藍藻類	<i>Homoeothrix janthina</i> *	ビロウトランソウ	2,772	1,800	1,920
2		<i>Phormidium</i> spp. *	サヤコモ	60	40	10
3		<i>Chamaesiphon minutus</i>	コンボウランソウ	194	65	144
4	珪藻類	<i>Melosira varians</i>	チャヅツケイウ	5	200	10
5		<i>Diatoma vulgare</i>	イケイウ	5	40	5
6		<i>Fragilaria capitellata</i>	オビケイウ	17	100	29
7		<i>Fragilaria crotonensis</i>	オビケイウ	10	30	5
8		<i>Fragilaria vaucheriae</i>	オビケイウ	60	80	72
9		<i>Ulnaria inaequalis</i>	ハリケイウ	127	65	10
10		<i>Ulnaria ulna</i>	ハリケイウ		15	5
11		<i>Amphora pediculus</i>	ニセクチビルケイウ	7		
12		<i>Cymbella aspera</i>	クチビルケイウ	2	5	
13		<i>Cymbella delicatula</i>	クチビルケイウ	2		
14		<i>Cymbella janischii</i>	クチビルケイウ	2	5	
15		<i>Cymbella leptoceros</i>	クチビルケイウ	5	5	5
16		<i>Cymbella turgidula</i> var. <i>nipponica</i>	クチビルケイウ	425	185	130
17		<i>Cymbella turgidula</i> var. <i>turgidula</i>	クチビルケイウ	127	65	5
18		<i>Cymbella</i> sp.	クチビルケイウ	2		
19		<i>Encyonema minutum</i>	ハマクチビルケイウ	46		38
20		<i>Encyonema silesiacum</i>	ハマクチビルケイウ	17	15	5
21		<i>Gomphoneis heterominuta</i>	クサビフネケイウ	50	200	53
22		<i>Gomphoneis minuta</i>	クサビフネケイウ	5	5	5
23		<i>Gomphonema angustum</i>	クサビケイウ	10	75	43
24		<i>Gomphonema clavatum</i>	クサビケイウ			5
25		<i>Gomphonema parvulum</i>	クサビケイウ		10	
26		<i>Navicula bacillum</i>	フネケイウ	2		
27		<i>Navicula capitatoradiata</i>	フネケイウ	41	20	5
28		<i>Navicula cari</i>	フネケイウ	14	15	
29		<i>Navicula cryptocephala</i>	フネケイウ		70	
30		<i>Navicula cryptotenella</i>	フネケイウ	53	125	10
31		<i>Navicula gregaria</i>	フネケイウ	12	145	10
32		<i>Navicula lanceolata</i>	フネケイウ	2		
33		<i>Navicula nipponica</i>	フネケイウ	5		5
34		<i>Navicula phyllepta</i>	フネケイウ		55	14
35		<i>Navicula rostellata</i>	フネケイウ		5	
36		<i>Navicula saprophila</i>	フネケイウ		40	
37		<i>Navicula slesvicensis</i>	フネケイウ	5	15	
38	<i>Navicula subalpina</i>	フネケイウ	5	15	10	
39	<i>Navicula tripunctata</i>	フネケイウ	2	10	10	
40	<i>Navicula trivialis</i>	フネケイウ	5			
41	<i>Navicula yuraensis</i>	フネケイウ	5			
42	<i>Navicula</i> sp.	フネケイウ	122	430	182	
43	<i>Reimeria sinuata</i>	カイコマケイウ	7	85	53	

	類	種 名		市民球技場	和田橋	楓橋
		学 名	和 名			
				2021. 8. 31		
44		<i>Rhoicosphenia abbreviata</i>	マカ <sup>リ</sup> サビ <sup>ケ</sup> イウ		10	
45		<i>Achnanthes minutissima var. scotica</i>	マカ <sup>リ</sup> イウ	60	90	
46		<i>Achnantheidium convergens</i>	ツメカ <sup>ケ</sup> イウ	276	125	312
47		<i>Achnantheidium latecephalum</i>	ツメカ <sup>ケ</sup> イウ		95	10
48		<i>Achnantheidium minutissimum</i>	ツメカ <sup>ケ</sup> イウ	7	20	10
49		<i>Achnantheidium pyrenaicum</i>	ツメカ <sup>ケ</sup> イウ		20	48
50		<i>Cocconeis pediculus</i>	コバ <sup>ン</sup> ケイウ	5		
51		<i>Cocconeis placentula</i>	コバ <sup>ン</sup> ケイウ	2	20	34
52		<i>Nitzschia dissipata</i>	ササ <sup>ハ</sup> ケイウ		75	62
53		<i>Nitzschia fonticola</i>	ササ <sup>ハ</sup> ケイウ	26	105	14
54		<i>Nitzschia linearis</i>	ササ <sup>ハ</sup> ケイウ	5		
55		<i>Nitzschia palea</i>	ササ <sup>ハ</sup> ケイウ	12	45	24
56		<i>Nitzschia perminuta</i>	ササ <sup>ハ</sup> ケイウ	324	2,590	34
57		<i>Surirella bifrons</i>	オハ <sup>ン</sup> ケイウ	2		5
58	緑藻類	<i>Scenedesmus spp.</i>	イダ <sup>モ</sup>	5		
59		<i>Ulothrix zonata</i>	ヒビ <sup>ミ</sup> ト <sup>ロ</sup>	12	30	10
60		<i>Cloniophora sp.</i>	クロ <sup>ニ</sup> オ <sup>フ</sup> オ <sup>ラ</sup>	24		24
61		<i>Stigeoclonium sp.</i>	キヌ <sup>ミ</sup> ト <sup>ロ</sup>	480	875	1,200
62		<i>Cladophora crispata</i>	シオ <sup>グ</sup> サ			5
63		<i>Closterium sp.</i>	ミカ <sup>ヅ</sup> キ <sup>モ</sup>		10	
64		<i>Cosmarium sp.</i>	ツヅ <sup>ミ</sup> モ	2	5	

\*: 糸状体数、他は細胞数

イ 出現種の分類学的集計結果

分 類	調査地点	市民球技場	和田橋	楓 橋
藍藻類 Cyanophyceae		3 種	3 種	3 種
珪藻類 Bacillaroophyceae		43 種	41 種	35 種
緑藻類 Chlorophyceae		5 種	4 種	4 種
種数合計		51 種	48 種	42 種
細胞数合計 (1 mm <sup>2</sup> 当たり)		5,472	8,150	4,590

ウ 付着藻類の優占種と優占度

調査地点	市民球技場	和田橋	楓橋
優占種 (優占度%)	<i>Homoeothrix janthina</i> ビロウドランソウ (50.7%)	<i>Nitzschia dissipata</i> ササノハケイソウ (31.8%)	<i>Homoeothrix janthina</i> ビロウドランソウ (41.8%)
第2位優占種 (優占度%)	<i>Stigeoclonium sp.</i> キヌミドロ (8.8%)	<i>Homoeothrix janthina</i> ビロウドランソウ (22.1%)	<i>Stigeoclonium sp.</i> キヌミドロ (26.1%)
第3位優占種 (優占度%)	<i>Cymbella turgidula var.</i> <i>nipponica</i> クチビルケイソウ (7.8%)	<i>Stigeoclonium sp.</i> キヌミドロ (10.7%)	<i>Achnantheidium convergens</i> ツメワカレケイソウ (6.8%)

(3) 底生生物調査結果 (調査日: 令和3年8月31日)

ア 出現種一覧

単位: 個体数/30cm×30cm×2回当たり

分類	調査地点	市民球技場
水生昆虫 蜉蝣目 (カゲロウ)		
1 モンカゲロウ <i>Ephemera strigata</i>		2
2 マダラカゲロウ属 <i>Ephemerella sp.</i>		3
3 ミツオミジカオフトバコカゲロウ <i>Acentrella gnom</i>		1
4 フタモンコカゲロウ <i>Baetis taiwanensis</i>		2
5 Jコカゲロウ <i>Nigrobaetis sp. J</i>		2
6 ウスイロフトヒゲコカゲロウ <i>Labiobaetis atrebatinus orientalis</i>		1
7 コバネヒゲトガリコカゲロウ <i>Tenuibaetis parvipterus</i>		1
8 タニガワカゲロウ属 <i>Ecdyonurus sp.</i>		1
9 ヒメヒラタカゲロウ属 <i>Rhithrogena sp.</i>		2
毛翅目 (トビケラ)		
10 ナカハラシマトビケラ <i>Hydropsyche setensis</i>		1
11 カクツツトビケラ属 <i>Lepidostoma sp.</i>		3
12 アオヒゲナガトビケラ属 <i>Mystacides sp.</i>		1
13 セトトビケラ属 <i>Setodes sp.</i>		1
双翅目 (ハエ)		
14 ウスバガガンボ属 <i>Antocha sp.</i>		1
15 カンムリケミゾユスリカ属 <i>Stempellinella sp.</i>		1
鞘翅目 (コウチュウ)		
16 ゴマダラチビゲンゴロウ <i>Oreodytes natrix</i>		1
節足動物		
17 ダニ目 <i>Acarina</i>		3

5 ダイオキシン類調査結果（東京都調査）

1 河川

(1) 水質

調査地点	平成28年度			平成29年度			平成30年度			令和元年度			令和2年度			令和3年度		
	春季	秋季	年平均	春季	秋季	年平均	春季	秋季	年平均	春季	秋季	年平均	春季	秋季	年平均	春季	秋季	年平均
	多摩川(和田橋)	0.055	0.048	0.052			0.063	0.063	0.063			0.062	0.062	0.062				
成木川(両郡橋)		0.057	0.057			0.063	0.063	0.063										
黒沢川(落合橋)				0.083	0.074	0.079				0.068	0.066	0.067						
霞川(金子橋)	0.09	0.055	0.073			0.071	0.070	0.070			0.091	0.072	0.082			0.067	0.071	0.069

単位：pg-TEQ/L

※環境基準：1pg-TEQ/L以下 平成22年度から成木川(両群橋)における調査は年1回となった。

(2) 底質

調査地点	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
多摩川(和田橋)	0.21		0.21		0.21	
成木川(両郡橋)	0.24		0.60		0.28	
黒沢川(落合橋)		0.61		0.64		0.50
霞川(金子橋)	1.0		0.98		1.10	

単位：pg-TEQ/g

※環境基準：150pg-TEQ/g以下

2 土壌

調査地点	調査年度	測定結果
大門3丁目	平成13年度	120
長淵6丁目	平成13年度	52
河辺町8丁目	平成15年度	17
沢井2丁目	平成15年度	0.26
成木4丁目	平成15年度	32
河辺小学校	平成20年度	0.18
天ヶ瀬町	平成25年度	1.6
柚木町1丁目	平成27年度	6.5
河辺町1丁目	令和2年度	4.2

単位：pg-TEQ/g

※環境基準：1,000pg-TEQ/g以下

平成12, 14, 16~19, 21~24, 26, 28~令和元年、3年度は青梅市内調査なし

単位：pg-TEQ/L

3 地下水

調査地点	調査年度	測定結果
御岳2丁目	平成12年度	0.069
沢井2丁目	平成12年度	0.073
黒沢3丁目	平成12年度	0.072
木野下2丁目	平成12年度	0.076
御岳1丁目	平成13年度	0.062
柚木町2丁目	平成13年度	0.055
根ヶ布1丁目	平成13年度	0.055
今井1丁目	平成13年度	0.056
長淵2丁目	平成13年度	0.055
富岡3丁目	平成15年度	0.065
長淵8丁目	平成15年度	0.065
今寺1丁目	令和元年度	0.038

※環境基準：1pg-TEQ/L以下

平成14, 16~23, 25~30年度, 令和2、3年度は青梅市内調査なし

イ 出現種の分類学的集計結果

分類	調査地点	
	市民球技場	
水生昆虫	蜉蝣目 (カゲロウ)	9種
	毛翅目 (トビケラ)	4種
	双翅目 (ハエ)	2種
	鞘翅目 (コウチュウ)	1種
節足動物		1種
種数合計		17種
細胞数合計 (30cm×30cm×2回当たり)		27

ウ 底生生物の優占種と優占度

調査地点	市民球技場
優占種 (優占度%)	<i>Ephemerella</i> sp. マダラカゲロウ属 (11.1%)
	<i>Lepidostoma</i> sp. カクツツトビケラ属 (11.1%)
	<i>Acarina</i> ダニ目 (11.1%)

(4) 定性分析結果 (調査日: 令和3年8月31日)

調査地点	市民球技場
確認された主な鉱物	石英
	曹長石

藻類・底生生物調査地図

